

態度文脈における固有名

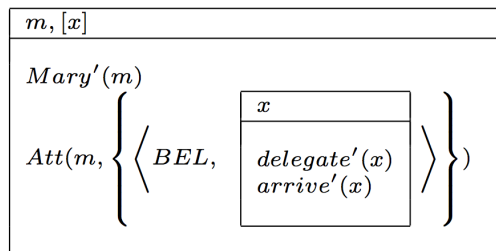
藤川直也
首都大学東京

本発表では、命題的態度報告文の補文中に現れる固有名について、談話表示理論 (DRT) に基づく意味論的分析を試みる。

Fujikawa (2016) は、態度報告文をまたぐ不定 NP と代名詞の間の照応関係、特に Geach の志向的同一性の事例を説明するために、メタ談話指示という種類の談話指示を導入している。たとえば(1)には、談話指示 x のメタ談話指示 $[x]$ を含む談話表示構造(2)が対応する。(2)において $[x]$ は、*delegate'* と *arrive'* という情報を (信念という態度をともなって) 含む心的ファイルを表し、(2)が真になるのは、メアリーがそうした心的ファイルをもつ場合かつその場合に限る。

(1) Mary believes that a delegate arrived.

(2)



本発表ではメタ談話指示を用いた分析を固有名に拡張する。特に固有名はその指示対象に対応する談話指示がすでに文脈中にあるという前提をもつとする (DRT での標準的な) 見解(cf. Kamp, et al, 2011)を踏まえた上で、固有名がトリガーする前提を文脈が満たす、あるいはそれが適合(accommodate)される異なる幾つかの仕方を考察する。

文献

Fujikawa, N. (2016). 'Coordination and Anaphora in Attitude Contexts', *Proceedings of the Thirteenth International Workshop of Logic and Engineering of Natural Language Semantics (LENLS 13)*, pp. 27-40.

Kamp, H., J. van Genabith, and U. Reyle (2011). 'Discourse Representation Theory', in D. Gabbay and F. Guentner (eds.) *Handbook of Philosophical Logic, Volume 15*, Springer, pp. 125-394.